

文化活動に関するアンケート

(文化を担う団体、ボランティア、NPO等団体)

| 調査対象 | 対象団体 | 回答数 | 回収率 |
|--------|----------------------------|------|-------|
| | 137団体 | 61団体 | 44.5% |
| 内 訳 | <文化活動者> | | |
| | ・ 地域団体の文化活動者 (県芸術文化協会加盟団体) | 35団体 | |
| | ・ 市町村文化協会 (市町村芸術文化団体) | 25団体 | |
| | <文化活動支援者> | | |
| | ・ NPO法人 | 10団体 | |
| | ・ ボランティア (芸術文化分野) | 26団体 | |
| | 〃 (公文協関係) | 18団体 | |
| | 〃 (県博協関係) | 16団体 | |
| | ・ 各種団体 | 7団体 | |

1 日常的な活動の場所や発表の場所についての要望 (回答数45団体)

(多かった意見)

- ・ 施設使用料の低減や無料化 (20)
- ・ 日常的な練習場所やホール等練習・発表場所の確保 (16)
- ・ 広さ、照明等の設備を熟知した職員配置、閉館時間の延長など施設の使いやすさ (6)

(その他の意見)

- ・ 県市町村立の文化施設における改修・修理の財源確保
- ・ 公共施設での地域の方々との出会い
- ・ 解説、庭園管理以外のボランティア活動としてできることを増やしたい
- ・ 学習会の希望
- ・ 現状のままで満足

2 文化活動に関する情報の収集・発信方法 (現状) (回答数54団体)

(収集)

- ・ 文化施設や市町村発行の広報誌、芸術文化団体発行の会報誌、インターネット (メール含む)、DM、マスコミ、他団体、口コミ 等

(発信)

- ・ 芸術文化団体発行の会報誌、マスコミ、インターネット (メール含む)、照会による回答、他団体、口コミ 等

3 文化活動に関する情報の収集・発信方法 (今後の希望) (回答数18団体)

(多かった意見)

- ・ インターネット (メール含む)、ホームページ (6)
- ・ 機関誌、広報誌 (5)

(その他の意見)

- ・会員間の綿密かつ迅速な情報連絡方法
- ・常に新しい情報整備の必要性
- ・県外や全国的な文化活動の情報を身近に収集できたらよい
- ・市民に情報を発信したいが、予算、労力の面で困難

4 団体の文化活動の向上に必要なこと (回答数 58 団体)

(多かった意見)

- ・会員(若い世代)の増加、後継者の育成、若年層への普及など、若い人材の確保・育成(17)
- ・他の団体、地域、異分野との交流(11)
- ・助成金、施設使用料の低減(無料化)、文化活動等の資金の確保(7)
- ・発表の機会の確保(6)
- ・会員の技術・資質の向上(6)

(その他の意見)

- ・来場者数を増やすPR(ケーブルテレビ等)や県広報誌での文化行事案内欄の常設枠の確保
- ・会員相互が他の人の活動に興味を持つこと
- ・研修旅行、スタッフたちの学習会
- ・行政の理解と支援
- ・国レベルでの日本の伝統文化継承・創造のための施策
- ・イベントを運営するボランティアスタッフ自身が郷土の人々であり、音楽を通して県民・市民が気軽に参加できるプログラムを開催し、世界への理解を深め、地域文化の向上を図る
- ・自覚と責任
- ・間違った情報やあやふやな情報を提供しない
- ・美術館での気持ちのよい時間を来館者に過ごしていただくための配慮
- ・多くの人々の理解を得ると同時に人々の生活における心豊かな時間づくり
- ・一人ひとりが楽しみ創造する、そんな文化の地域づくり
- ・プロだけでなくアマチュアや素人が集まった「県民劇団」や「市民劇団」等ができればよい
- ・文化芸術団体への支援や文化施設における設備の充実と満足し得るサービスが提供できる環境づくりが必要

5 美術館・博物館や文化ホールなどの文化施設への要望、活性化策 (回答数 49 団体)

(多かった意見)

- ・発表の場の不足、予約がとれない等の会場の確保(13)
- ・施設使用料の低減や無料化(12)
- ・魅力ある空間づくりや楽屋、照明等の設備の充実(11)

(その他の意見)

- ・美術館や文化施設の周囲におけるイベントや店(屋台含む)等の進出を認める
- ・ホール職員数の増加
- ・文化団体との共催・協賛事業の展開
- ・人により対応が異なるため、施設側の対応がもう少し柔軟であってほしい

- ・文化創造の過程が体験等を通して確かめられるような動きのある施設づくり
- ・施設から学んだものを世の中に返す働きのある双方向性の持つもの
- ・施設の管理・運営のしやすさを先に考えるのではなく、利用者の立場に立った施設づくり
- ・来年度の高文祭における各施設のスタッフの方への指導・教育
- ・障害者アートの正しい理解と啓蒙
- ・公共交通機関の整備
- ・立山を訪れる外国人観光客へのサービス向上
- ・広報の充実
- ・指定管理者制度の見直し（指定管理者制度の導入により長期的なビジョンを持った安定的な運営ができなくなっているため）
- ・施設と利用者の中で、活動をコーディネートする施設側の人材は不可欠
- ・質の高さを望むが、敷居の高さは望まない
- ・戦国武将に関する品物（鎧兜、刀等）を展示し、その武将に関する話も記載
- ・部門毎にその道の本物を展示又は出演
- ・地域住民や来館者と、より一層交流できるイベントの開催
- ・所属会員の高齢化のため、若年層入会に向けた啓発活動
- ・縮小ムード（人員・予算削減）の緩和
- ・公共施設や病院等の建設に際し、芸術文化の発表の場を想定しての設計

6 次代の豊かな文化の担い手の育成に、団体が果たせる貢献、役割と障害

○貢献、役割（回答数39団体）

（多かった意見）

- ・学校における出前公演等、学校教育との連携（10）
- ・教室の開講（4）
- ・芸術文化に関する少年団の結成（4）
- ・出演の場の提供（3）

（その他の意見）

- ・曜日を決めたり、年何回か街中の通りや施設を利用して無償で実施
- ・県内に散らばっている人材を結集し、目標に向かい刺激し合いながら、自己のレベルアップにつなげる
- ・老若男女問わず、多くの人に伝える
- ・記録を次世代に残す
- ・障害者アートの啓蒙、作品の保管、アートセンター的役割を一つの小さな民間拠点として機能させる
- ・よい聴衆を育てる
- ・地域住民を巻き込んだボランティア組織の育成
- ・市民音楽グループの支援、育成
- ・イベント（アーティストとのコラボレーション、パレード、シンポジウム）への参加
- ・利用者サービスや調査・研究面での向上
- ・万葉歌や万葉の故地の解説
- ・越中万葉と大伴家持の顕彰や普及のための活動

- ・子どもの頃から外国の文化にふれさせる
- ・子どもたちへの学習機会を増やすとともにその幅を広げるきっかけをつくる
- ・ホールサポーターの育成
- ・青少年（高校生）らとの共同企画等、呼び水的な役割

○障害（回答数41団体）

（多かった意見）

- ・行政（学校）の理解・協力体制（17）
- ・優秀な人材、後継者不足等による人材確保（13）
- ・指導者の招聘に要する経費等の資金確保（7）
- ・会員が集まる時間が合わない等の時間的都合（3）

（その他の意見）

- ・発表の場の提供
- ・高校以降のフォローが難しい
- ・継続性のある施策
- ・県民性
- ・ボランティアの資質向上
- ・小中学生の「ふるさと学習」に対して、博物館ができることを具体化させる
- ・「市文化少年団」の創設や「指導者協議会」の組織
- ・委託事業がないこと

7 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと（回答数55団体）

（多かった意見）

- ・メディア等を通しての県内外における情報発信や交流（24）
- ・発表の場の提供（7）
- ・富山県民が県内についての理解をもっと深める（4）
- ・出前講座、出前公演（3）
- ・地域の特色ある活動の継続（3）

（その他の意見）

- ・県展や市展だけではダメで、都会から大きな公募展を持ってくる
- ・他のイベントとの併催
- ・誰もがとびつくような冊子づくり及び配布
- ・文学においても他県との交流が行える場の提供
- ・ジャンルごとに富山の近代以降の文学史などを編纂していくことも必要
- ・県や自治体の文化行政の見直し
- ・活躍のあった実績を残す
- ・個々のコミュニケーションのさらなる向上
- ・急ぐことなく進めることが肝要
- ・学校教育の中でゆとりをもって個性豊かに追求していく教育の再構築
- ・県民芸術文化祭ではもっと地域の文化協会を巻き込んで開催してほしい
- ・富山県は、多くの伝統芸術や新しい芸術を発信しているが、毎回同じ団体が中央や海外へ派

遣されている傾向がある。そのため当県の特徴を生かした文化芸術に努力している人材を評価し発信してほしい

- ・ 宣伝の工夫
- ・ 予算の確保
- ・ 県内観光地の関係団体との連携

8 国内外に誇ることのできる文化の「宝もの」を自ら評価して、地域づくりに活かすために必要なこと（回答数47団体）

（多かった意見）

- ・ 地域の人々自らの発信（6）
- ・ 後継者及び指導者の育成（5）

（その他の意見）

- ・ 江戸から明治に生きた文化、芸能、芸術、技術等をもっと広く彫り起し、県内外の色々な機会ですそれを伝え、当時のよかった面を取り入れ生かしていくべき
- ・ 文化の宝ものを愛する人たちの層を増やす
- ・ 日本的なものや郷土に伝わるものを多方面で演じる
- ・ 今、享受されている文化の価値をまず客観的に評価し、県民にかけがえのない財産であることを認識してもらう
- ・ 地元の大学における郷土学習センターの設置
- ・ 小・中学校において、教科書等での学習
- ・ 県、市等で、ジュニア教室への支援
- ・ 異分野、海外との交流
- ・ 外向けの観光化に過ぎると文化は徐々に崩壊するおそれがある一方、観光化は若い層を文化へ引き込む契機ともなり得る
- ・ 道路、宿泊施設など受け入れ体制の整備
- ・ 予算確保
- ・ 各自がボランティア精神をもって取り組む
- ・ 行政・企業等の支援
- ・ 地域の活性化のために、知識の普及だけでなくコミュニティをつくり活動する意識が必要で、それをサポートする労働環境や子育て環境等トータルのサポートが必要
- ・ 博物館においては、知識だけでなく、体験型の情報提供が求められる
- ・ 「宝もの」を知る機会、知る能力、評価できる能力を養わなければ活かさない
- ・ 活動、発表の場
- ・ 諸外国と日本の文化の違いを比較し、日本独自のものについての再考
- ・ マスコミ等による情報発信
- ・ 現在あるものを大事に育てていくこと
- ・ 各団体、行政等が協働していく体制づくり
- ・ 文化庁や外郭団体の支援事業を鋭意活用
- ・ よい作品を買い上げて展示
- ・ 宝物＝骨董品というイメージから脱し、地域の文化財、歴史資料等を展示できる施設
- ・ 短期間で「効果が出ない」、「評価できない」という考え方を捨てること。それには3年間程度

で完成するものを地域で造り出すこと

9 そのほか、団体の活動や文化振興についての課題 (回答数39団体)

(多かった意見)

- ・後継者の育成、会員の確保 (18)

(その他の意見)

- ・芸術家の中から人間性等を厳選し、文化振興に生かす
- ・学校、社会教育機関との連携 (ふるさと教育への協力等)
- ・富山における全国的、国際的な大会の開催
- ・「富山から世界へ」という前進の一方で、「世界から富山を」という保守バランスが大切
- ・文化・教育の未来に投資する県を目指してほしい
- ・「家元制度」と「子どもたちに教える」ことの間には、指導する先生の悩みがある
- ・近隣の市町村の文化協会との意見交換ができればよい
- ・各市町村には年次総合計画があるが、計画に盛り込まれないものについては、実現しにくい点がある
- ・様々な予算の何%かは芸術文化の予算として保障してほしい
- ・時間不足及びコミュニケーション不足
- ・ボランティアスタッフのスキルアップ及び自発的な活動
- ・市等の自治体の理解 (補助金カット、事務局の減員)
- ・発表の場の提供
- ・県当局、マスコミが連携してのPR
- ・心や時間にゆとりのある社会の構築
- ・専属のコーディネーターや技術職員の採用
- ・完成・評価される前に多くの若者がやる気をなくしている。これから守ってあげられる環境がほしい

文化行政施策に関する市町村アンケート

対象市町村 15市町村

回答市町村 15市町村

調査年月 平成23年3月

主な回答

1 市町村における文化施設の課題

- ・施設の老朽化等による改修（10）
- ・費用対効果の面による整理・統合
- ・箱もの先行ではなくソフト面の在り方の検討
- ・博物館の展示ケースや図書館の蔵書数を増やす等の文化施設設備の充実
- ・各館の連携の希薄さ
- ・運営方法及び芸術文化活動としての機能充実
- ・指定管理者制度の導入や合併により、設立時の各施設の特色が薄らぐ傾向にあるので、類似施設間での仕分けを行い、館の特徴を再構築する必要性
- ・経費削減、使用料負担での利用者減の悪循環
- ・文化団体活動の自立を促し、補助金削減の推進
- ・文化財を扱う人材育成や文化財の観光事業の推進及び調査・研究体制づくり
- ・民間のノウハウ等の活用の必要性

2 地域文化活動の拠点としての文化施設の今後のあり方

- ・市民の発表の場等の気軽に利用できる空間づくり（5）
- ・各館の連携及びネットワークの構築（3）
- ・文化施設等の規模を考慮した、目的に合わせた住み分け（2）
- ・箱もの先行ではなく、ソフト面の在り方を十分に検討する必要性（2）
- ・庁内検討チームを設置し、ファシリティマネジメント（土地や建物、設備等を総合的に企画、管理、活用する経営手法）の活用
- ・図書館の開館時間の延長や祝日開館
- ・観光事業等とのタイアップ
- ・それぞれの館の特色を活かし、市民目線での育成拠点づくり
- ・費用対効果を考え、利用者のターゲットを絞り、住民参加型あるいは施設の特徴を最大限活かした文化事業に絞っての事業展開
- ・厳しい財政状況における効率的な運営

3-1 地域の文化振興施策を総合的、効果的に進めるための市町村の役割

- ・一般の方への情報提供（3）
- ・活動団体の相互関係の構築（3）
- ・発表の場の提供（2）
- ・住民の文化的要請に応じ、自主性を重視した継続的な文化活動の支援（2）
- ・地域住民や文化団体等のニーズの把握
- ・「活動の芽生え」の発掘
- ・文化の担い手の育成

- ・文化施設のソフト・ハード面での機能充実
- ・一過性の取組みではなく、各種芸術文化団体の取組が次代に継承できよう支援

3-2 県に期待する役割

- ・資金面での支援（3）
- ・市町村単位では実施が難しいような、全県下で行う大規模な芸術文化事業の展開（3）
- ・自治体間の交流促進（2）
- ・広域的な行政主体として県全体を視野に入れた文化振興の総合的な企画・調整
- ・市町村の求めに応じての人的支援
- ・分野にこだわらない、広く県民が興味を持つ企画の実施
- ・担い手育成のための講師の紹介
- ・県下の文化施設相互の結びつきのリーダー
- ・手本となるような隣県の文化施策の情報入手
- ・本来基礎となる根本（文化財等）的な県立美術館・博物館の設置
- ・地方自治体の相談窓口としての品格と学識層の厚み
- ・長期継続が図られる支援制度の充実
- ・全国的な活動を図る上での協力

4 次代の豊かな文化を築く担い手として子どもを育成するために必要なこと

- ・参加・体験型の事業の実施（5）
- ・優れた芸術文化に触れる機会の提供（4）
- ・公民館ふるさと教育事業や郷土芸能活性化事業等を利用し、地域の伝統行事、市町村に縁のある人等を児童に紹介
- ・地域の方の積極的かつ継続した指導
- ・幼少年期からの親子活動の推進
- ・文化に精通した指導者の育成
- ・行政と地域の協働による地域づくり
- ・子どもたちの将来に向けた長期的展望の文化施策の計画
- ・学校の授業と各文化施設との連携
- ・学校間の枠をはずした文化サークル設立と活動場所の確保

5 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと

- ・マスコミ等を利用した情報発信（4）
- ・交通整備や観光的側面等の他分野との連携（2）
- ・富山の風土・四季と結び付けての富山の文化の紹介
- ・富山は、観光よりも住んでみてよさが理解できる県であるため、県外からの定住者の声を生かした情報発信が必要
- ・地元の方の地域文化の魅力の再発見及びその紹介
- ・広範囲の分野及び高品質の文化活動の展開
- ・地域の特性を活かした伝統に裏付けされた、確実な育成
- ・都市、人口偏重の政策から脱却し、価値観の見直しを広く日本中（世界中）からの目線での再考
- ・特徴のある「富山の文化」のすべてをまとめて発信することは困難と思われるので、絞込みを行い、全国規模の大会を継続して開催することにより、その参加者を活用して「富

山の文化」の発信をねらう

- ・ 県民が富山の文化に興味を持ち知る
- ・ 各種イベントにおける発表の機会の提供
- ・ 全国に先駆けた新しい芸術文化事業の展開
- ・ 富山ならではの文化財の活用

6 地域にある文化の「宝もの」を評価し、地域づくりに生かし発信するために必要なこと

- ・ 継続した情報発信（3）
- ・ 地域の文化の正しい評価及び紹介（2）
- ・ 地域住民が「宝もの」を誇りに思う必要性（2）
- ・ 地域の文化芸術の掘り起こし及び地域住民の文化資源に対する意識向上
- ・ 地域文化の振興を行う文化団体等に対する支援
- ・ 発表する機会の拡充
- ・ 各地区にある公民館との連携
- ・ 他市町村の文化施設等との連携によるにぎわい創生
- ・ 行政職員が地域に目を向け、「宝もの」について興味・関心を持つ必要性
- ・ 地域以外に知られていない文化財の掘り起こし
- ・ 「宝もの」そのものの価値付けをあげる方法

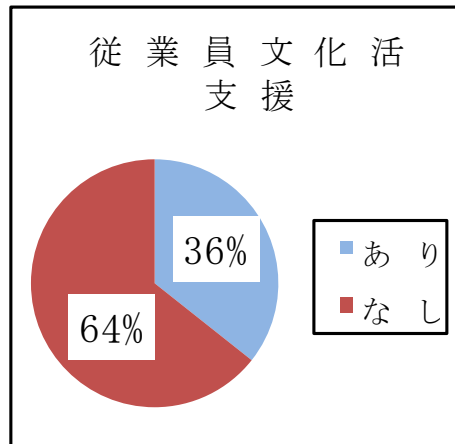
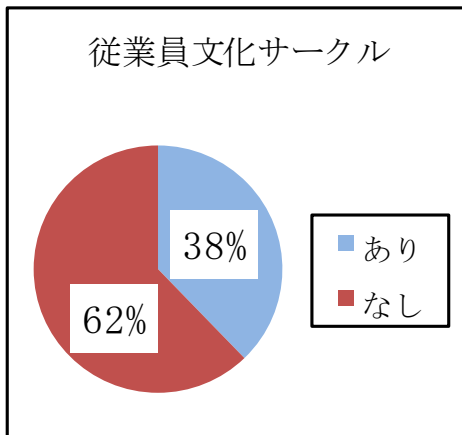
7 文化創造活動の向上を図るために必要なこと

- ・ 発表・活動の場の提供（5）
- ・ マスメディアやHPによる情報発信（3）
- ・ 他自治体との連携（2）
- ・ 異端者を排除せず、広い視野で富山の文化を形成する諸団体、個人の出現
- ・ 若者の考えをリサーチし、若者が集える企画が必要
- ・ 幼児からの教育
- ・ 関係機関、地元の人々との連携
- ・ 継続性のある取組み
- ・ 文化施策の充実及び市民の積極的な参加
- ・ 根気強く市民に問い直す必要性
- ・ 地域住民と行政の相互交流
- ・ 先進事例の研究と、市町村での応用
- ・ 地域の芸術家の育成・支援
- ・ 大学・高校等における文化的な新人育成コースの充実
- ・ 住民の体験型文化事業の展開

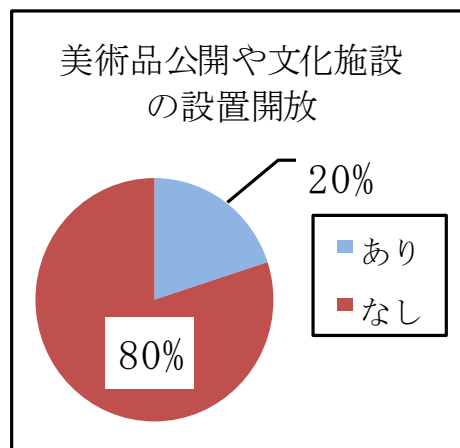
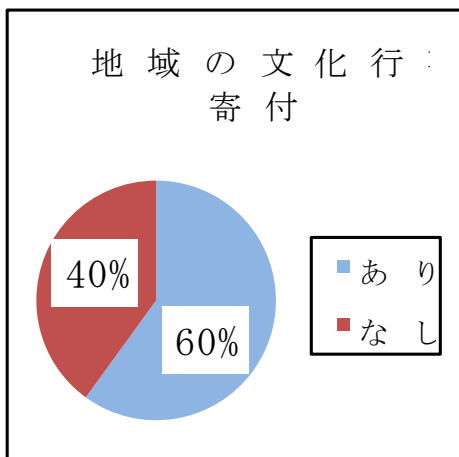
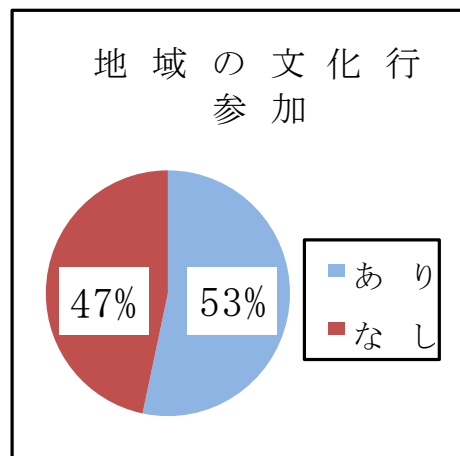
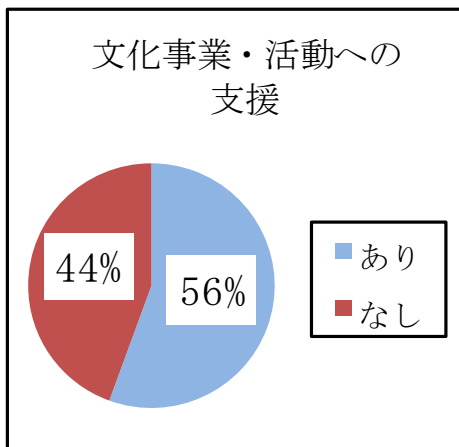
企業による文化支援等に関するアンケート

対象企業 103社
回答数 45社（回収率43.7%）
調査年月 平成23年3月

1 社（事業所）内における文化活動



2 文化行事、文化活動への支援



3-1 文化事業や文化活動を支援した理由（回答数26社）

（多かった意見）

- ・地域の活性化に貢献したい。地域に根ざし、地域との共生を目指すため（20）

（その他の意見）

- ・社会的責任を果たすため
- ・各種団体の依頼による
- ・自社事業・製品を幅広く知ってもらう
- ・従業員の福利厚生の一環

3-2 文化活動の支援を行ううえでの課題（回答数9社）

（多かった意見）

- ・経営状況の変化、予算の捻出、休日の集まりが悪い等の資金面、人的面での負担（6）

（その他の意見）

- ・一方通行である
- ・費用対効果
- ・社員の参加意欲の向上

4-1 文化活動の支援を行うための条件（回答数22社）

（多かった意見）

- ・資金面、人的面で支援できる状況にある（8）
- ・具体的な情報提供（4）

（その他の意見）

- ・地域性、公共性
- ・文化活動の必要性・妥当性を考慮
- ・活動内容が会社のCSRに合っていること
- ・担当部署の設置
- ・新聞やテレビ等で一般への告知

4-2 今後も支援したいと思うか（回答数25社）←回答企業の中に否定的な意見はなし

（多かった意見）

- ・できる限り支援したい。継続的に支援したい（20）
- ・自社事業の主旨と合致するなら支援
- ・会社の景気次第
- ・今後検討したい

4-3 どのような支援が可能か（回答数22社）

（多かった意見）

- ・従業員への参加の呼びかけ、ボランティア等の人的支援（8）
- ・資金的支援（6）
- ・協賛広告等（5）

（その他の意見）

- ・展示品の提供等
- ・文化財等で資料化されていないものの資料化及び啓蒙・普及
- ・その都度考えたい
- ・伝統的な行事、文化財の保存・継承に寄与

5 県の文化振興施策への意見や要望（回答数6社）

（多かった意見）

- ・文化活動等の情報提供（4）

（その他の意見）

- ・県が所有する資料・展示品等の積極的な公開・貸出し
- ・発掘資料、調査報告書等について民間調査会社を積極的に活用し、調査成果を市民・県民に還元できる体制づくり
- ・県埋蔵文化財センターの小竹貝塚速報展及び富岩運河のPR